

## 背景・目的

過去2か年の試験により、当地での直播栽培の実施可能性が示されましたが、生育初期における病虫害防除や雑草管理技術の確立が課題となっていることから、  
①殺虫剤の使用時期が収量等に与える影響、②除草剤の使用適性を検証しました。



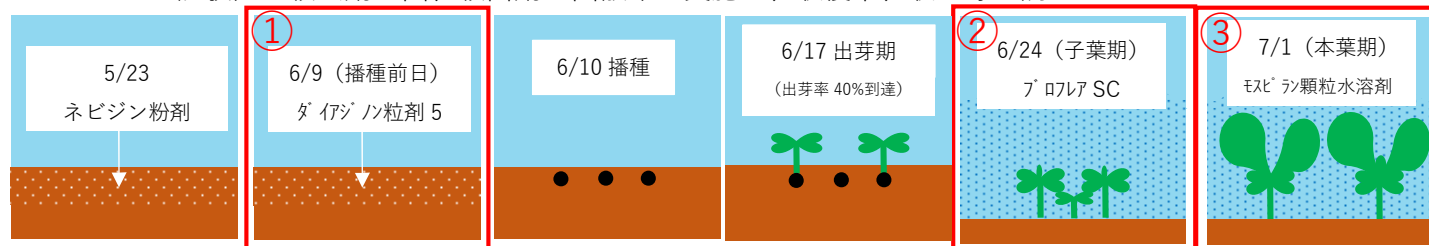
## 結果

供試品種：‘アーリーキャノン’（殺菌剤2剤の種子粉衣あり、シードテープ使用、2反復）

栽培時期：6/10 播種、7/22 土寄せ（追肥、中耕）、8/13～9/2 収穫調査

栽植密度：条間60cm、株間20cm（8,333株/10a） ※地域慣行の移植栽培より株間を密植

殺虫剤試験：①出芽前、②子葉期（本葉0～1枚）、③本葉期（本葉2～4枚）に散布、生育中期以降（7/11～8/29）は全試験区で殺虫剤6回、殺菌剤6回散布を実施し、収穫率、収量等を調査



試験区名	殺虫剤散布の有無			出芽率 (%)	出芽後消失率 (%)	収穫率 (%)	収量 (kg/10a)		
	①出芽前	②子葉期	③本葉期				規格内	規格外	合計
定型防除区	○	○	○	81	0	70	1,508	912	2,420
出芽前無処理区	×	○	○	83	6	65	1,133	1,175	2,308
子葉期無処理区	○	×	○	77	3	60	959	1,378	2,337
本葉期前無処理区	×	×	○	82	14	63	870	1,433	2,303

→防除回数が少ない試験区は ①出芽率はほぼ同じだが、出芽後消失率（出蕾までに消失した株の割合）が高かった。  
②総収量に大きな差はないが、規格外（凸凹したもの、挿し葉）が多かった。

→外観重視なら出芽前・子葉期も防除するのが望ましいが、用途（加工用など）によっては省略できる可能性がある。

除草剤試験：7/10 に非選択性除草剤又は選択性除草剤を散布、雑草の状況、収穫率、収量等を調査

試験区名	雑草放任区	バスタ液剤区	ナブ乳剤区	ポルトフロアブル区	ワンサイドP乳剤区	
適用雑草	-	1年生雑草 (非選択性)	1年生イネ科雑草 (選択性)	1年生イネ科雑草 (選択性)	1年生イネ科雑草 (選択性)	
散布方法	-	畝間散布	全面散布	全面散布	全面散布	
散布6日後の雑草の状態 〔散布直前との比較〕						
	(増加)	(減少)	(増加)	(増加)	(増加)	
収穫率 (%)	48	70	68	55	63	
収量 (kg/10a)	規格内	658	1,137	741	968	1,159
	規格外	1,218	1,349	1,704	1,103	1,096
	合計	1,876	2,486	2,445	2,071	2,255

→非選択性のバスタ液剤は雑草を抑制したが、選択性の3剤はイネ科雑草が少なかったため効果は限定的であった。

## 結果の活かし方

当地に適した直播栽培を確立するための基礎資料として活用します。